

令和3年度 兵庫県立上野ヶ原特別支援学校 学校評価

評価基準 4…よくできた(8割以上) 3…できた(6割以上) 2…あまりできなかった(4割以上) 1…できなかった(4割未満)					
教育方針	「学校の教育目標の達成に向けて教職員が一丸となり、日々、組織的・計画的に展開する教育活動に、『人の心をひきつけるものがある』魅力ある学校」 児童生徒一人一人の障害の実態や特性に応じて、意欲的に生きる力を養い、社会的自立に向けて、個々の教育的ニーズに応じた指導と支援を行う。				
学校経営の重点	1 一人一人の児童生徒の持てる力を引き出す 2 社会的自立と自己実現を目指す 3 すこやかな体と豊かな心を育てる	本年度 学校経営 の 重点	(1)アセスメントの積極的な活用と保護者とのより確実な連携 (2)学部を超えた情報共有と連携と児童生徒との適切なかわり (3)新型コロナウイルス対応と安全管理の徹底	本年度 学校経営の 重点項目	ア 教科指導及び生徒指導(道徳・人権・自立活動・特別教育活動を含む) イ 訪問教育の充実 ウ 健康管理に関する指導 エ 防災教育の推進 オ 研究推進 カ 新型コロナ対応と安全管理の徹底 キ 地域の特別支援教育のセンター的機能 ク キャリア教育・就労支援の推進 ケ 保護者連携 コ 特別支援教育・体験チャレンジ事業の実施 サ 特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習 シ 関係機関との連携による指導・支援 ス 地域住民との協働や理解促進 セ ICT教育の推進

本年度の重点項目(ア～キ)	番号	分掌等	本年度の最重点目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	保護者評価	保護者集計平均	総括(成果及び課題と改善方策)	学校関係者評価
ア ク ケ シ	1	小中学部	家庭、福祉、医療との連携を深め、児童生徒の細やかな実態把握のもと、適切な生活支援や学習指導を行い、子どもたちの主体的な活動につなげる。	A	3.36	A	3.57	病院や地域の福祉と情報交換をしてつながりを持ち、保護者とも良好な関係が築けたことで、支援の方向が明確になるなど、成果があった。医療的ケア児の支援や長期的な課題のある子どもの支援など、今後も継続することが大切である。 職場見学や校内実習ができた。本校卒業後の進路を見据えて、という意識までは持ちにくいところもあったが、自立活動や作業、職業の授業などを中心に一人で行える課題を増やすことができた。研究会などをきっかけに、チームで指導を見直すこともできた。	●コロナ禍の対応 ・コロナ禍において、学校現場の先生方のご苦労や大変さを、保護者の方々も十分に感じ取った上で、学校生活や指導指針等への一定の理解を示しておられるのであろうということが、アンケートを通して見受けられました。 ・新型コロナウイルスの感染防止のため先生方が日々ご苦労され、その中で授業を工夫されたことと思われる効果や児童の成長もみられていることがわかりました。今年に入って感染が広がり、学級閉鎖で対応されていたかと思えます。児童の濃厚接触者かどうかの判断や、接触者にあたらぬのであれば登校可能なか、出席停止の基準や日数など、はっきりしたマニュアルがあればいいのですが、想定外のケースもあると思います。その場合はできるだけ早めに判断し根拠をもってご家族また支援者にご報告いただければ、ご家族の仕事や福祉サービスの利用にも支障が出にくいのでよろしく願いいたします。
	2		進路や社会生活につなげていけるよう、キャリア教育を意識して指導にあたる。授業作りや評価について、チーム検討や研修を行い改善していく。	B	3.14				
オ ク セ	3	高等部	ICT機器の機能・操作方法や、その特性を活かした効果的な活用の仕方を研修し、教師のスキルアップを図る。また、各教科等の指導の中で、卒業後の生活を豊かにするための情報活用能力の育成を目指した教材研究に取り組み、その実践を蓄積する。	B	3.2	A	3.27	ICT機器を積極的に活用し、生徒の意欲や主体性を導き出す効果を実感することができた。日々変化していくICT機器への対応力や、トラブル時の対処法など、教師のスキルアップは常に図っていく必要がある。 進路に関する情報収集に努め、進路についての学びを深められるような進路学習に取り組んだ。1年間を通して計画的に進路学習に取り組める体制づくりが課題である。	●保護者連携 ・保護者アンケートの中に、放課後等デイサービスに対しての個別の教育支援計画(個別の指導計画?)の提供に関するコメントがありましたが、個別の教育支援計画は情報共有のための資料であるはずなので、これが提供されないというのは好ましくないと考えられます。個人情報の適切な活用が図られるような対応をお願いいたします。 ・個別支援計画や学習計画について、保護者からのアンケートが記載されています。やはり目に見える形で提示していただけたらよくなると思うことだと思います。学校と家庭だけでなく、放課後デイサービスなどを利用されている生徒さんも多い中、保護者さんが保有されているサポートブックの活用も利用し、共に進めて行けたらよいかと思います。保護者の意識も高くなっていくのではないのでしょうか?
	4		生徒の様々なニーズに応じた進路情報の提供ができるように、今年度に引き続き進路情報の収集や研修に努める。また、企業就労や施設利用にスムーズに移行できる力の育成を目指した進路学習の充実を図る。	B	3.16				
カ ケ	5	総務部	新型コロナ禍において、学校行事は密にならないよう実施し、動画によるリモート参加にすることで全校生が一室に会することのないよう配慮する。	A	3.63	A	3.67	上野スポーツ大会や創作祭等の学校行事は学部学年毎で分散実施し、鑑賞する側の児童生徒においても各教室でリモート参加することで全校生が一室に会することのないよう配慮した。□ 感染拡大の状況下、学校行事は学部学年毎で参観してもらい、授業参観に関しても小中と高を3日間ずつ分散実施することで学校と保護者とのつながりが切れないよう配慮した。	
	6		感染症対策をした上で、参観日等は密を避けて実施し、学校と保護者のつながりを大切にする。	A	3.54				
(1) ア	7	教務部	新学習指導要領の実施に向けて、教育課程を編成し、個々の教育的ニーズを踏まえた個別の指導計画を保護者と共通理解しながら作成する。	A	3.27	A	3.78	保護者の自由記述にもある通り、今後も継続して目標や指導内容について、保護者と共通理解しながら作成していきたい。 次年度は校務支援システムの導入に向けて、各教科別の個別の指導計画を検討する。導入に向けてマニュアル等を整える。	
	8		観点別学習状況の評価を踏まえた個別の指導計画、指導略案を作成する。	A	3.3				
ア ク セ ス セ	9	教務部(情報)	保護者や地域、関係機関との繋がりを意識した情報発信に努めるため、各学部・学年と連携しながら、HP及びブログ等を定期的に更新する。	A	3.27	B	3.14	今年度新たにブログ投稿件数について各学部学年、校務分掌に依頼し、計画を作成したが計画通り投稿できず、情報発信数が少なかった。定期的に原稿作成するよう部内で周知し、投稿を促進したい。いつどの学部学年等が投稿するのか調整し、より詳細な計画を作成する。ブログ訪問者数が1日10人程度とアクセスが少ないため、アクセスを促せるように月に1度QRコードを連絡帳に添付する。学校HPについては、コメントで指摘があった通り、情報が古く、次年度内容の整理に動きたい。 4月に「ICT活用指導カステップアッププログラム」について定め、計画的に研修を行ってきた。PTAの協力を得て、iPadの有料アプリケーションを購入することができ、その内容や活用方法について夏季休業中に研修を行うことができた。各学級から情報担当者の選出を依頼し、電子黒板やApple TV、GoogleWorkspaceについての研修を随時行った。上野スポーツ大会や創作祭の各教室へのライブ配信をGoogleWorkspace「Meet」を用いて行った。事後学習用の映像を「Google classroom」へ保存し、各教室からアクセスして視聴できるようにした。	
	10		ICT機器の活用方法を教職員間で共有するとともに、情報機器の整備や研修等を通じて授業の支援方法など授業力向上に活かす。	A	3.34				
ア ウ ケ	11	生活部	生活部だよりを発行し、児童生徒への生活指導と登下校指導や自力通学に関する情報について保護者へ周知して連携を図る。	A	3.3	A	3.49	生活部だよりを6部発行した。スマートフォン使用の注意事項やスクールバスを待つマナー、自力通学観察に関する情報などを掲載した。自力通学に関しては観察実施日の情報提供にとどまったが、今後は「なぜ自力通学をすることが大切であるか」などを掲載していきたい。 職員朝礼を中心に児童生徒の情報を伝達することで、全教師が共通理解をして関われる場面が増えた。それにより、必要な場面での関わりだけでなく、見守れる場面もあった。また、昼休みなどに学年を超えて児童生徒と関わる場面も増えた。	
	12		児童生徒の疾病・障害を踏まえた生活指導を行うために、各学部学年主任及び担任や生活部員を中心に情報交換を行う。専門部会・学部会や職員朝礼等で伝達し、共通理解を図る。	A	3.32				

本年度の重点項目(ア～キ)	番号	分掌等	本年度の最重点目標と具体的方策	職員評価	職員集計平均	保護者評価	保護者集計平均	総括(成果及び課題と改善方策)	学校関係者評価
(3)ウカケシ	13	保健部	学校生活をより充実して過ごすために、登校後の検温や健康観察を毎日行い、家庭や医療機関と積極的に連絡を取るようとする。新型コロナウイルス感染症などの感染症から身を守るため、マスクの着用・手指の清潔を徹底して行う。	A	3.65	A	3.67	感染症対策として登下校時の検温を習慣化し、体調の異変が見られた際は速やかに家庭連絡し受診を促した。マスクの着用や手指消毒は徹底するのが難しい児童生徒もいるが、職員による教室や教具の消毒作業は今後も継続していく。	●情報発信について ・ICT機器を効果的に活用し地域の学校も含め、教育方法も大きく変化していることを改めて実感しております。私の施設でもZOOMでの研修や会議を行うようになり、また、4事業所をつないでの入所式や該当事務所をつないでの成人お祝い会を実施し、回を追うごとに職員のスキルも上がってきております。今後はZOOMなどを上手く活用した支援も検討していきたい。 ・学校評価で教務部(情報)で職員評価と保護者評価で若干のギャップがあったように思われます。情報発信については、発信側は頑張っているつもりですが、受信側は発信者が思うほどには伝わっていないというようなギャップが起きやすいと思われまます。発信していること自体のアピールも必要になるかもしれないし、一方通行な発信で終わらないような工夫も必要なのかもしれないと感じました。 ・情報発信を強化して！ブログはあまり見ていません。わかりにくい写真と内容が薄く、とても読む気になれません。1人の教師にまかせっきりになっていませんか？ブログは誰に読んでもらいたくて発信しているのか意図が理解できていません。学部通信も何かがある度に記事があってもいいと思います。
	14		医療的サポート推進事業実施委員会や医療的サポート担当者会議を定期的に行い、指導医・主治医・看護師と連携を密にして医療的ケアを必要とする児童生徒のニーズや保護者の要望に応える。	A	3.52			医療的ケアを必要とする児童生徒やニーズや保護者の要望に適切に応えられるよう医療的サポート担当者会議を随時開いた。昨年度9月から医療的ケア児童支援法が施行されたことも受け、より職員の専門知識の向上に努める必要がある。	
アキシ	15	支援研修部(支援)	個別の教育支援計画に基づき、適切な支援ができるようにする。必要に応じて、支援会議を開催し、福祉、医療等関係機関と連携を図り、支援につないでいく。	A	3.38	A	3.56	各学部、学年において、個別の教育支援計画に基づき適切な支援が行えるように取り組んだ。支援会議については、相談支援専門員との連携を活かしながら、行っていけるようにしたい。	●学校評価について ・職員アンケート(自由記述)の中に、本校と分教室・訪問学級の区別に関する記述があったが、もっともなことだと感じます。作業が複雑になるかと思われまますが、ご検討をいただければと思います。 ・評価できない・わからない人数にも目を向けていただきたい。 ・学校評価については、病院や地域の関係機関と情報交換を行うことで一定の成果が見られているようですが、今後も更に学校・医療・福祉・家庭が連携して対応することで、連続する生活において切れ目のない自立に向けた対応が出来ればと考えています。
	16		地域の教育委員会、各地域のネットワークやエリアコーディネーターと連携しながら、適切な情報提供や地域支援を行う。	A	3.25			三田市教育委員会からの依頼により、巡回教育相談の実施及び就学相談会に参加し、適宜支援を行った。相談を担当できる教員を増やすよう取り組んだ。病弱教育に関する相談に応じられるように専門性を高める必要がある。	
アオ	17	支援研修部(研修)	児童生徒が主体的、対話的で深い学びができるように、日々の授業研究や授業実践研修会を通して、資質および実践力向上を目指した授業研究を行う。	A	3.22	A	3.54	各学部、学年において、日々授業研究を行いながら、授業実践を行った。また、教科会ごとの授業研究及び授業実践研修会を通して研修を行った。よりよい授業づくりができるような体制について検討していきたい。	●学校評価について ・職員アンケート(自由記述)の中に、本校と分教室・訪問学級の区別に関する記述があったが、もっともなことだと感じます。作業が複雑になるかと思われまますが、ご検討をいただければと思います。 ・評価できない・わからない人数にも目を向けていただきたい。 ・学校評価については、病院や地域の関係機関と情報交換を行うことで一定の成果が見られているようですが、今後も更に学校・医療・福祉・家庭が連携して対応することで、連続する生活において切れ目のない自立に向けた対応が出来ればと考えています。
	18		研修会や実践報告会を設定し、それぞれの取り組みを共有しながら、特別支援教育を中心とした専門性の向上を図る。	A	3.24			病弱教育研修講座については、夏季休業中に本校とひかりの森分教室、さくら訪問学級をオンラインでつないで実施した。自立活動実践報告会を対面形式で行い、それぞれの実践について情報共有を行った。今後も、個別の指導計画を活用し、自立活動の専門性を高められるようにしていきたい。	
クケシ	19	キャリア教育部	社会生活に興味関心を高め、社会的・職業的自立に必要な力を育てるため、地域の関係機関と連携し、職場見学、校内実習、現場実習、校外学習、技能検定等の体験的活動に取り組む。	A	3.3	A	3.7	現場実習では、コロナ禍でも地域の事業所の協力により、全員が希望する所に行くことができた。職場見学では、時間をずらし、分散で実施した。校内実習では、地域のゲストティーチャーによる作業学習に新しく取り組んだ。校外学習は、時期をずらして実施した。作業学習で技能検定の内容に取り組み、(障害の程度に関係なく)高等部から10人が受検した。	●学校評価について ・職員アンケート(自由記述)の中に、本校と分教室・訪問学級の区別に関する記述があったが、もっともなことだと感じます。作業が複雑になるかと思われまますが、ご検討をいただければと思います。 ・評価できない・わからない人数にも目を向けていただきたい。 ・学校評価については、病院や地域の関係機関と情報交換を行うことで一定の成果が見られているようですが、今後も更に学校・医療・福祉・家庭が連携して対応することで、連続する生活において切れ目のない自立に向けた対応が出来ればと考えています。
	20		ニーズに応じた進路に関する情報を提供するため、進路ガイダンスや実習説明会、進路3者懇談会、個別の進路相談会を実施する。	A	3.32			進路ガイダンスでは、卒業生の保護者に体験を話してもらった場を新たに設けた。進路3者懇談会では、相談事業者とも連携し、スムーズに利用につながる情報の共有ができた。個別の進路相談会をキャリア教育だよりで案内し、随時相談で対応した。	
アオ	21	人権教育推進委員会	児童生徒が自己実現や自尊感情を育み、主体的に取り組めるような目標を設定し、学校行事や交流及び共同学習を実施する。	A	3.32	A	3.62	コロナ禍での学校行事や交流及び共同学習の為、実施内容の変更や縮小を余儀なくされたが、積極的に活動できた。今後もオンライン等を活用して更に交流が盛んに行える様に計画をたて、相互理解を図れるようにしていきたい。	●学校評価について ・職員アンケート(自由記述)の中に、本校と分教室・訪問学級の区別に関する記述があったが、もっともなことだと感じます。作業が複雑になるかと思われまますが、ご検討をいただければと思います。 ・評価できない・わからない人数にも目を向けていただきたい。 ・学校評価については、病院や地域の関係機関と情報交換を行うことで一定の成果が見られているようですが、今後も更に学校・医療・福祉・家庭が連携して対応することで、連続する生活において切れ目のない自立に向けた対応が出来ればと考えています。
	22		本校や分教室の実態に即した人権教育を、授業や日常生活に生かせるように研修会を実施する。	A	3.22			年に2回、本校は学部学年、分教室に分かれてそれぞれ研修内容を考えて、人権研修会を実施することができた。また、研修に使用したDVDを授業に役立てるなどの成果もあった。今後も今のよう形で研修を計画していきたい。	
シス	23	学校評議員会	令和3年度の教育活動の理解促進と学校経営ビジョンの実現のため、学校評価重点目標とアンケート項目を1学期中に保護者・学校関係者に公表する。職員は年度途中で学校評価の進捗状況を確認・評価するとともに、最終的には、年度末に学校評価アンケート(職員・保護者・学校関係者)を実施し、評価を行う。	A	3.28	A	3.57	年度当初に作成した学校評価の計画通り進めることができた。しかし、進捗状況作成時と最終の学校評価をする日程が近かったため、効果的に進捗状況を活用するために、進捗状況の日程を早めたい。	●学校評価について ・職員アンケート(自由記述)の中に、本校と分教室・訪問学級の区別に関する記述があったが、もっともなことだと感じます。作業が複雑になるかと思われまますが、ご検討をいただければと思います。 ・評価できない・わからない人数にも目を向けていただきたい。 ・学校評価については、病院や地域の関係機関と情報交換を行うことで一定の成果が見られているようですが、今後も更に学校・医療・福祉・家庭が連携して対応することで、連続する生活において切れ目のない自立に向けた対応が出来ればと考えています。
	24		学校運営のさらなる改善のため、各部・専門部・委員会ごとに設定した重点項目を、本校・訪問学級・分教室の教職員全員で共有し、それぞれの部署に応じて、重点項目の実現を目指す。	A	3.27			今後も、本校と他の部署(さくら、ひかり、総リハ)において、大枠においては、重点項目の趣旨を共有しながら、それぞれの部署に応じて、重点項目の実現を目指していきたい。	

評価	A	B	C	D
集計平均	4~3.21	3.2~2.41	2.4~1.61	1.6~0